



「知への初々しい憧れと畏敬の念」

～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第105号 令和3年12月7日

平和集会で、自ら学び考え行動する子へ

12月8日は、当時の日本が真珠湾攻撃を奇襲し、太平洋戦争に突入した日です。最近、テレビ番組で戦争について取り上げているのを見かけます。やはり大事です。負のことでありますが、太平洋戦争の悲惨さを語り継ぐことは・・・。

私の祖父は兵士として中国戦線に送られ、機関銃を背負って戦ったそうです。祖父は、懸賞金をかけられ、相手の軍隊にかなり命を狙われたと、当時、小学生低学年だった私に熱く語っていました。祝日には国旗を掲げる家でした。祖父は、まるで英雄伝のように語っていましたが、都度、祖母からは、「あんた（祖父のこと）は、戦争しか知らんやろ。だから、だちかんや（だめなんや）。戦争でみんなくろうしたんや。命あっただけでもめっけもんや。」（※石川県の方言です。）祖父母は、とっくのとおに亡くなりましたが、子ども心に（戦争はいけないんだ。）と思いました。

12月2日に、第5学年の阿部先生が企画し、区人権教育研究部と連携し、平和集会を開催しました。第5学年児童が、戦争経験者の二瓶治代さんの体験談を聞く授業です。体験談は、東京大空襲のことです。二瓶さんの小学生の頃、東京都の下町で会ったB29の爆撃にあいました。お話は、何かを読んで子どもたちに伝えるのではなく、何も見ないで語り掛けます。それだけでも、真剣な話で、真剣に聞かなくてはいけないと思いました。

爆撃よりも、火で焼け死ぬ人、母子の痛ましい姿、馬が立ったまま飼い主と燃える姿、炭になった人々、川に入るしかない、火が付いた赤ちゃんを知らずに背負って逃げる母親など、目を覆う内容です。二瓶さんは言います。ひどいとか、悲しいとか、そのような感情は一切わいてこなかった、と。人の心を壊してしまうのが戦争です。戦争は、いけないのです！子どもたちには、このことがよく分かったようでした。



会は、第5学年の児童が進めました。始めのことば、お礼の言葉、司会進行など子どもが進めました。話し合いも活発に行われ、東京大空襲について、聞く前よりも知識がついたようです。

会の後、二瓶さんをモデルにした絵本「またあしたあそぼうね」（新日本出版社）を阿部先生が購入し、ちょっと見せてもらおうと、よく内容が伝わる絵本でした。私も早速購入しました。校長室に飾ります！

（児童の感想）

戦争のことを教えてくださり、ありがとうございました。当時のことを思い出したくはなかったと思いますが、教えてくださり感謝です。もっともっと教えていただき、いっぱい質問をしたかったです。当時の状況がよく分かり、家が燃えたり、人が燃えたりしているのを見るのは、すごくつらいと思います。私はとてもつらいです。私は、広島原爆や沖縄の戦争などのことしか知らなかったのですが、東京でもこんなにつらい経験をしているんだと思いました。実体験をするとすると、私にはもう心がダメになっていたと思います。